

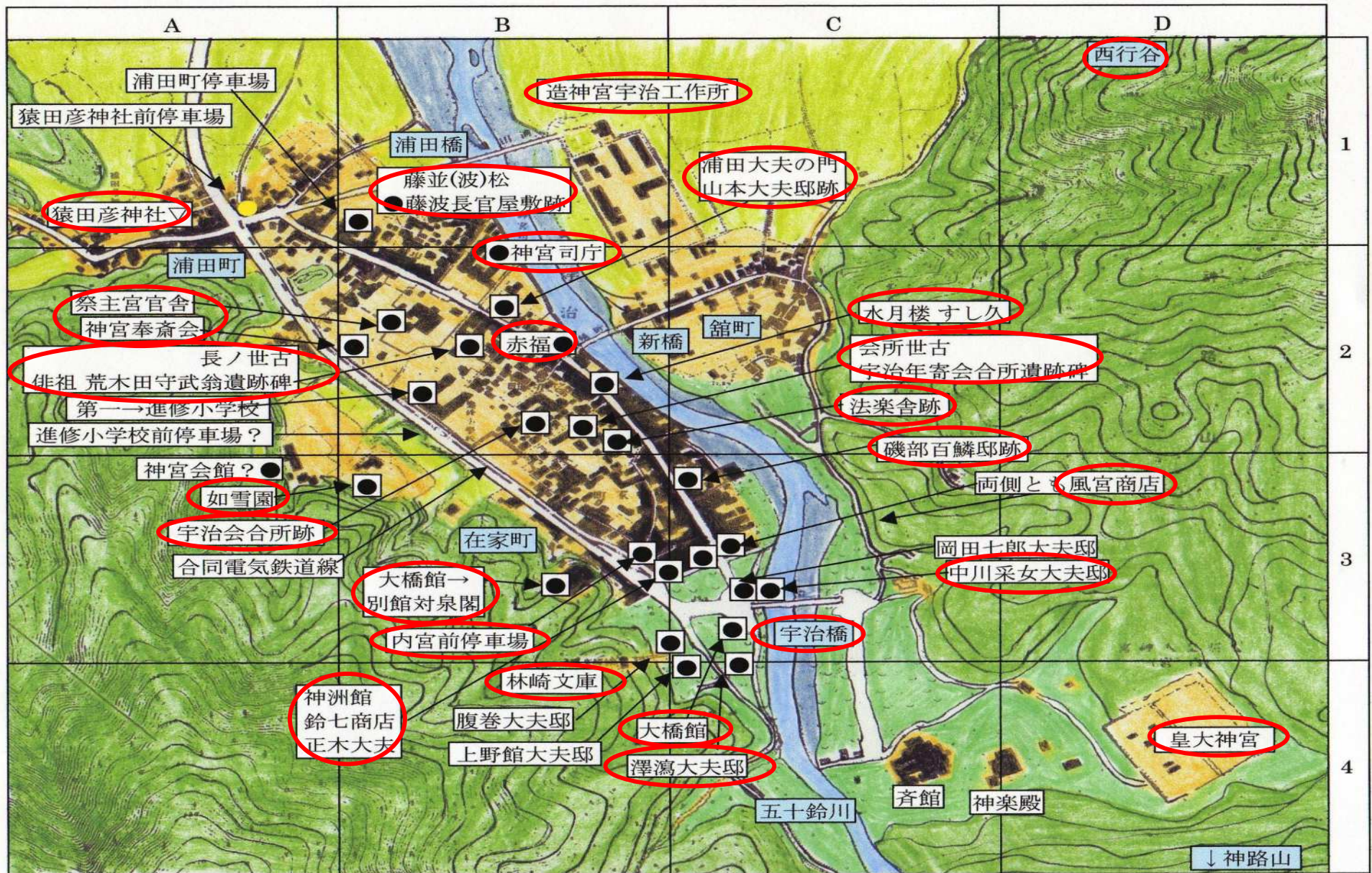
新古写真で巡る 伊 勢 散 歩

－ その 6 －
(完 結 編)

宇 治 と そ の 周 辺

秋 田 耕 司

宇治



伊勢神宮はなぜ、伊勢に鎮座したのか？ 伊勢神宮の候補地＝元伊勢はいっぱいあった

1. 同床共殿

神代の時代から、天皇は天照大御神(の代わりに三種神器)を皇居の殿内で祀っていた。

①八咫瓊勾玉(やさかにのまがたま)

現在は皇居にて保管

②八咫鏡(やたのかがみ)

現在は伊勢神宮に保管

③天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)

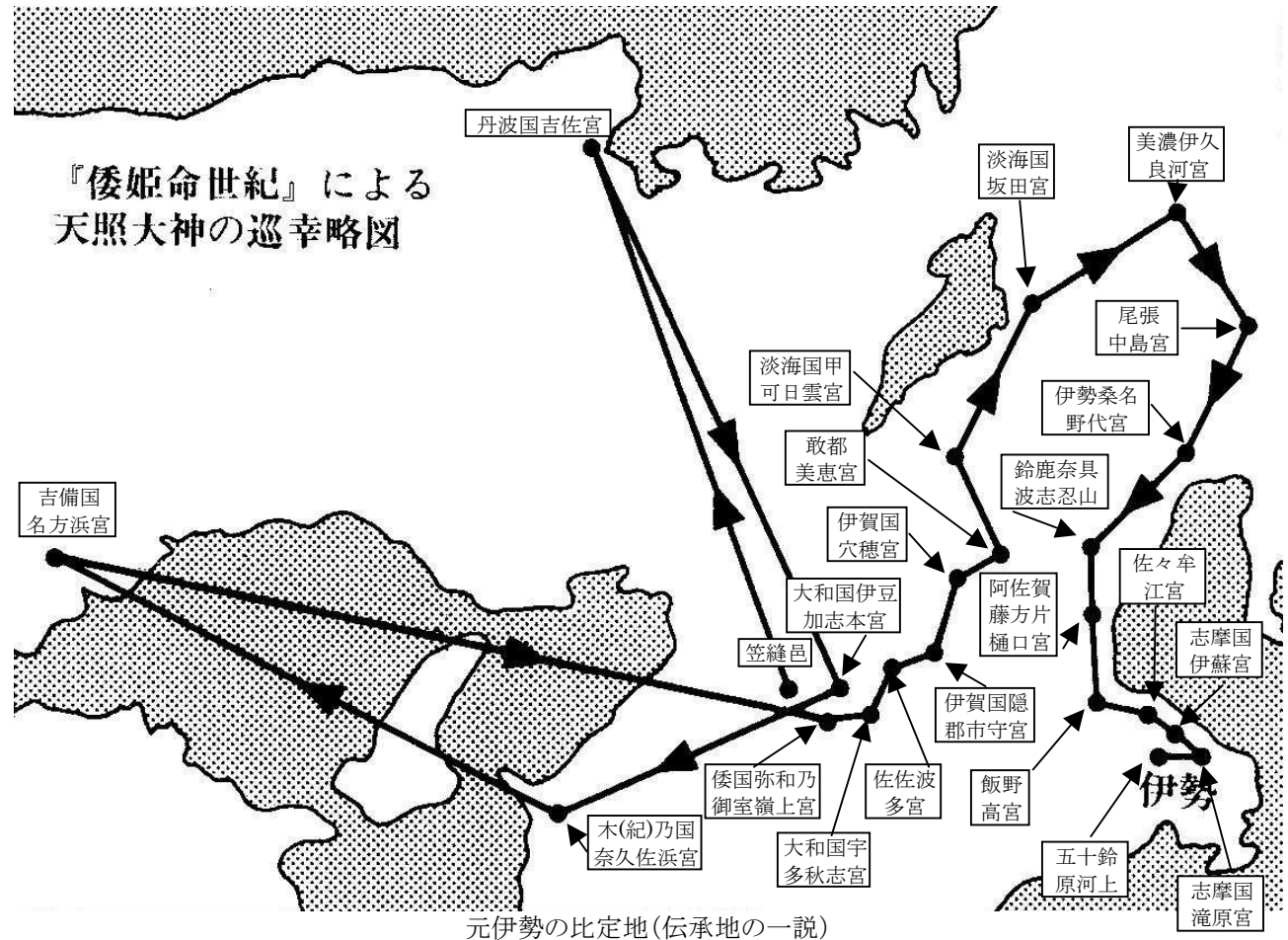
素戔鳴尊すなのうのみことが八岐大蛇やまたのおろちを退治した時にその尾から出たという天叢雲剣は12代景行天皇の時、倭姫命から日本武尊に授けられ、今は熱田神宮に草薙剣として祀られている

2. 神人分離

日本書紀によると、第10代崇神天皇5年(垂仁天皇25年(紀元前5年?)という説も)、疫病が蔓延し国が乱れたが天皇は徳を持って治めることが困難となり、神祇あまつかみくにつかみに向かってその罪を懺悔され、神の勢いを畏かしむあまり神器とともに住むことがきつくなった。(政教分離？宗教派が政務実務派に負けた?)そこで、皇女「豊鍬入姫命」とよすきいりひめのみことを天皇の代理として、鏡と剣を殿内から大和国笠縫邑かさぬいむらに移して奉祀することになった。これが『神人分離』の初めであり、斎宮いつみのみゃの始まりである。

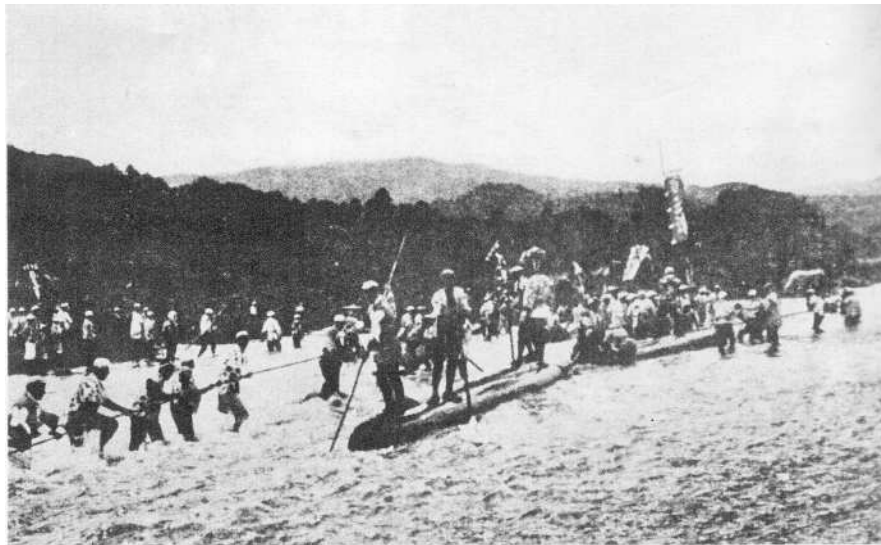
3. 伊勢神宮の鎮座

第11代垂仁天皇の第4皇女「倭姫命」がこれを引き継いで斎王となって、天照大御神が鎮まる聖地を求めて出発し、伊勢の地に鎮座した、という。



秋田説:持統天皇690年(7世紀、飛鳥時代の終わり)に式年遷宮第1回が行われたことから、伊勢神宮は600年代初頭前後に成立したのではないかと。そして、その500年後に外宮が成立したとあるので、外宮は1100年代初頭前後、平安時代に伊勢山田の豪族 度会氏を従属させ、その氏神を豊受大神宮としたのではないかと。その功績か？長く、外宮の禰宜職を世襲した。

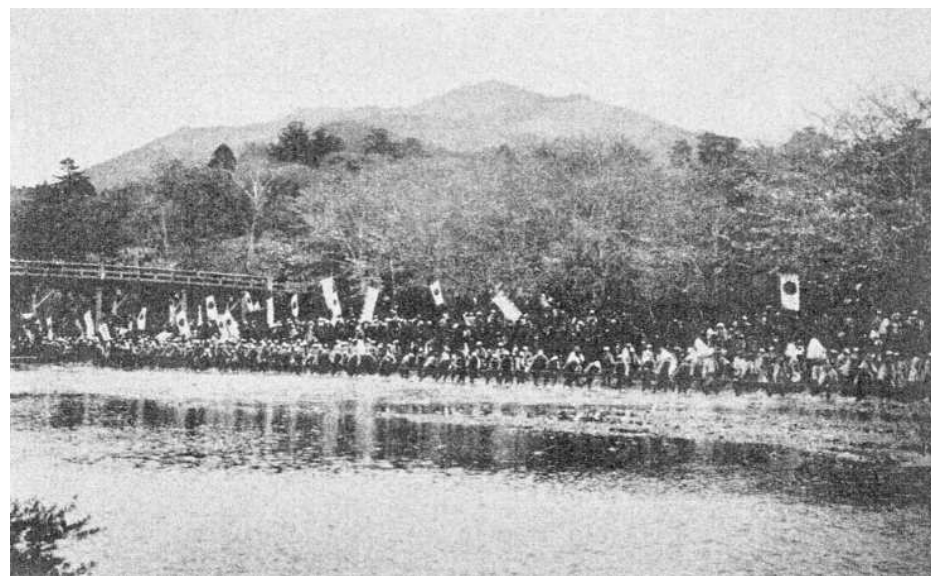
川 曳



川曳 大正11-12



川曳 昭和17



1861 文久元年宇治郷之図…内宮の宇治橋内にも民家はたくさんあった



神域案内図

こうたいじんぐう (ないくう)

皇室のご祖神の天照大神をおまつりする、わが国で最も尊いお宮です。五十鈴川の川上に千古の森に囲まれて、2000年の時を超えて古代のたたずまいを今日に伝えています。

▶ **荒祭宮** あらまつりのみや
天照大御神(あまてらすおおみかみ)の荒御魂(あらみたま)をまつる別宮(べつぐう)で、荒御魂とは神の特別な働きをする状態、または神が現れた状態といわれています。

▶ **子安神社** こやすじんじや
木華開耶姫命(このはさくやひめのみこと)をおまつりしています。
奥にある大山祇(おおやまつみ)神社の祭神の娘にあたります。
縁結び、子授け、安産、子育ての信仰があります。

▶ **参集殿** さんしゅうでん
参拝者用休憩所で、神宮ビデオを上映しています。ここには能舞台があり奉行事などに使われます。ここでもお札やお守りを受られます。

▶ **宇治橋 うじばし**
五十鈴川に架けられた木造の橋は神宮の表玄関です。長さは101.8m、両はじにある鳥居は、旧御正殿の機持柱(むもちばしら)をリサイクルしています。

迷んぐるあんないじよ
お宝お宝

美しきはウレシ
漸十思福所

宇治橋鳥居

たいしょうてんゆうおてう文治まつ
大正天皇御手続松



100

○ 人 /

▶ **御正宮** ごしょうぐう
社殿の中心の御正宮は四重の垣根に囲まれています。
唯一神明造(ゆいいつしんめいづくり)の古代の様式を伝え、萱葺き(かやぶき)の屋根には10本の榿木(かつおぎ)がのせられ、4本の千木(ちぎ)の先端は水平に切られています。

▶ **新御敷地** しん みしき
御正宮の敷地は東西に2カ月に一度の式年遷宮(しきねん)社殿が新しく建て替えられ、平成25年にはここに新しい敷地が完成しました。

▶ 神楽殿 かぐらでん
ご祈祷(きとう)のお神楽(かぐら)を行う御殿です。隣の御饗殿(みけでん)でもご祈祷をしています。
お札やお守りはここで受けられます。

てみずしゃ
手水舎

お参りしましよ

お参りの作法は
二拝二拍手
一拝です

▶ **御贄調舎**
みにえちようしゃ
お祭りの時にお供えする
アワビを調理する儀式が
行われます。

▶ 風日祈宮
かざひのみのみや
風の神をまつる別宮です。
鎌倉時代の元寇(げんこう)の
時、神風(かみかぜ)を吹かせて
日本を守った神です。

た

敬神家であった古市の妓楼「備前屋」の主人、太田小三郎が明治19年に神苑整備計画を提唱し、実行した

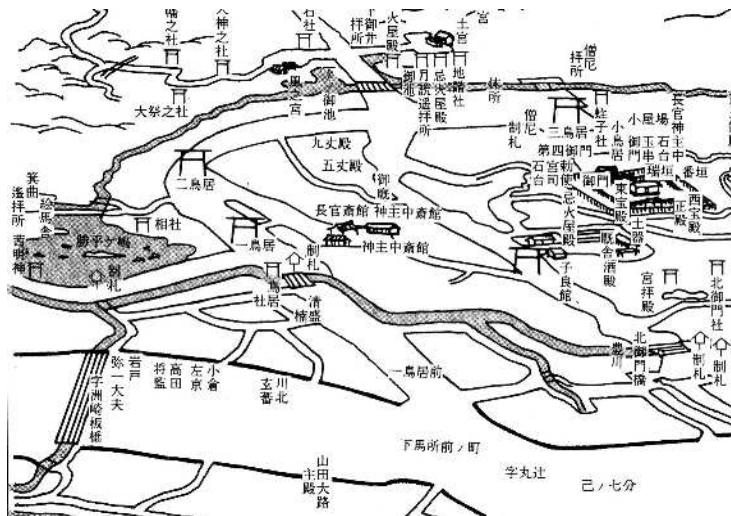
神苑会の業績



明治21以前には宇治橋内に民家が！



賓日館 明治20建設 明治天皇の母、英照皇太后がご宿泊



勾玉池 整備(明治22年)



神苑会の業績



神宮農業館 明治24 外宮前開館、明治38年倉田山移設 片山東熊(赤坂離宮)設計

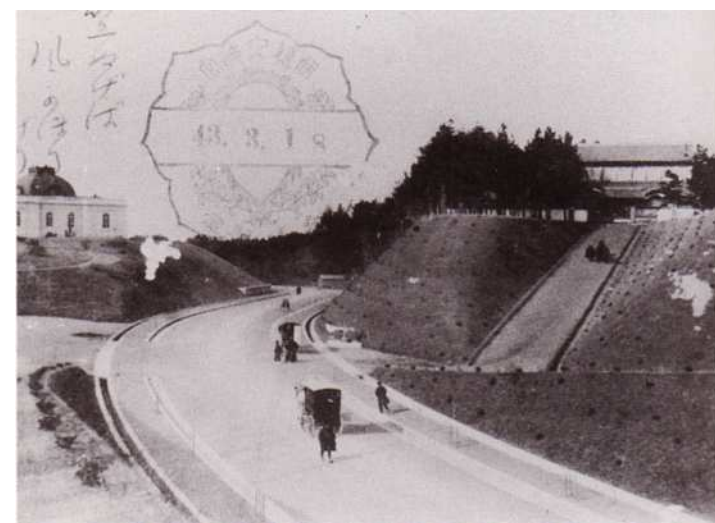


神宮撤下御物陳列所 明治36竣工 昭和50 おかげ横丁に移築

神 苑 会 の 業 績

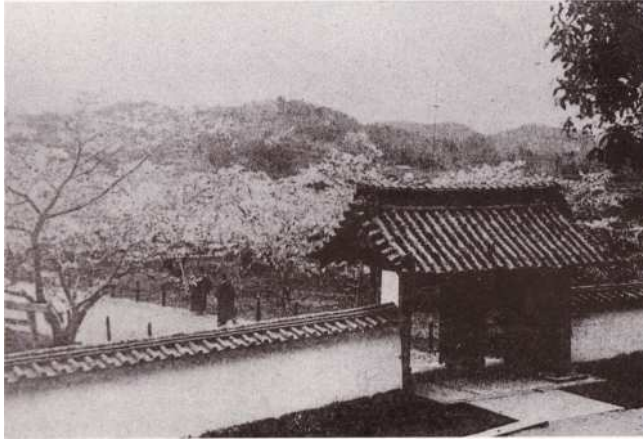


神宮徴古館 明治42 竣工 片山東熊設計 昭和20焼失 昭和28年再建



御幸道路 明治43年竣工 昭和9年 舗装

神苑会の業績



豊宮崎文庫の書籍類を神宮に奉納 明治44

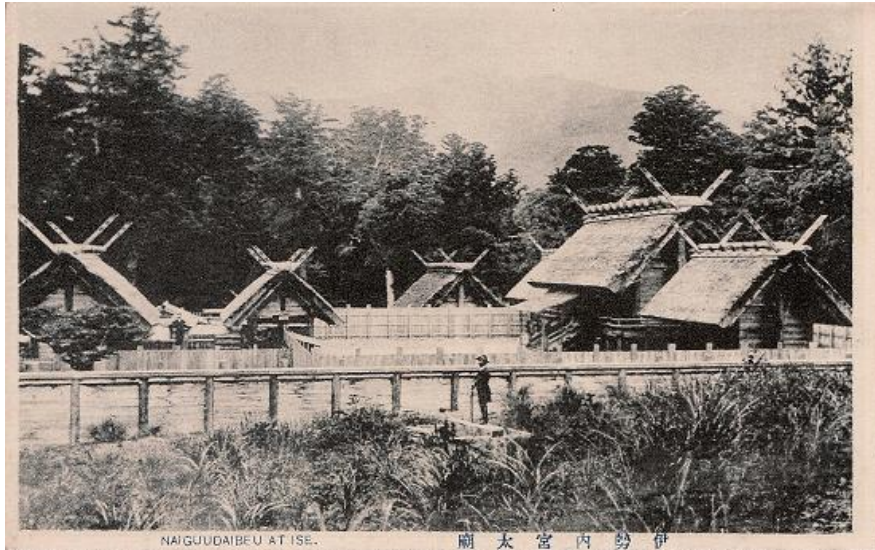


神苑会碑



太田小三郎紀功碑

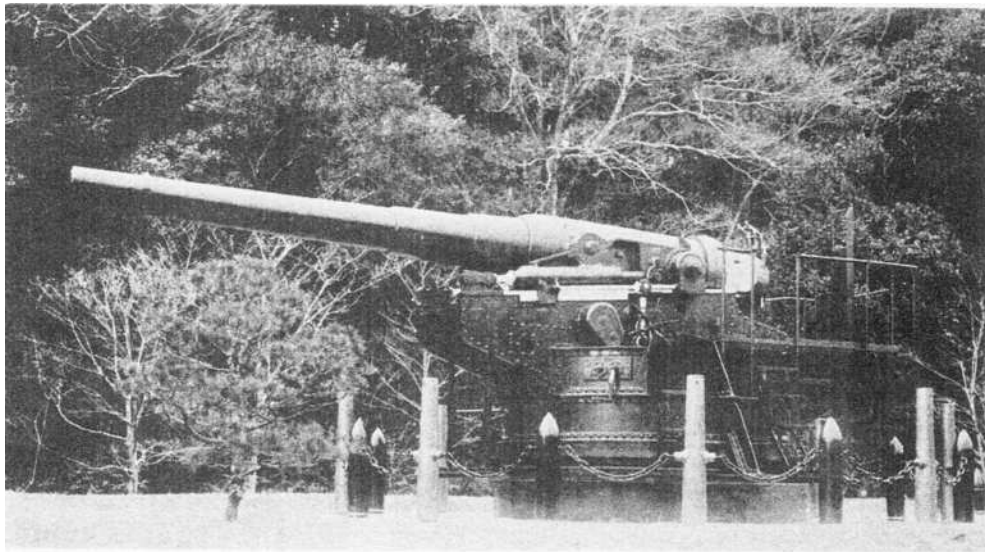
内宮



明治22まで 宝物殿は左右に
NAIGUUDAI BEU AT ISE. 伊勢内宮太廟



現在は 宝物殿は後方左右に



内宮献納砲 昭和初



時 雍 館 説 教 所 明治6

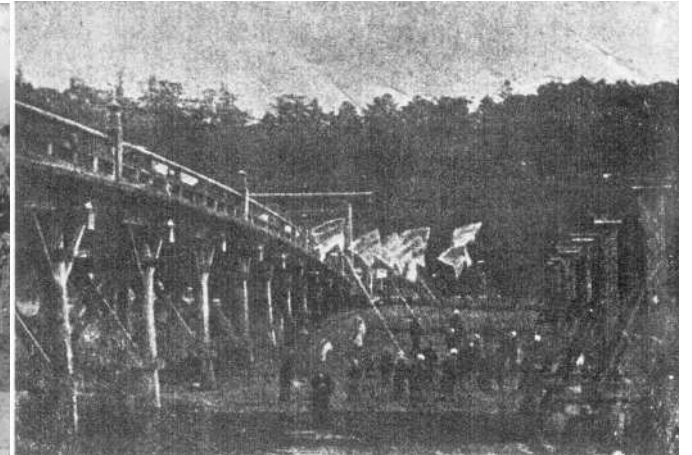
宇治橋前



明治10頃



網受け明治19



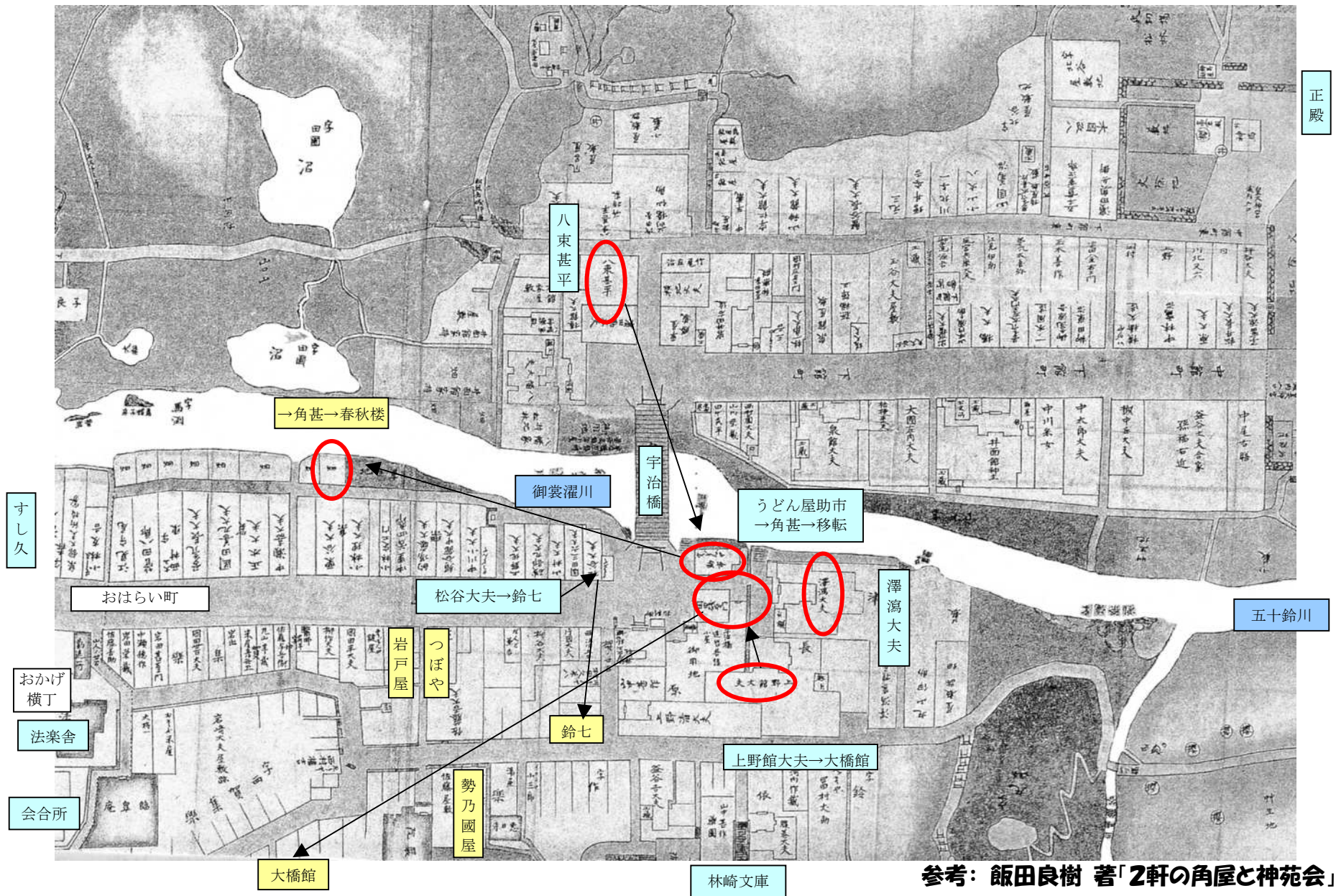
反対側にも 明治18-20



おはらい町入口両側に「かぜのみや」の看板 大正12では「風宮」は左側だけ



1861 文久元年宇治郷之図

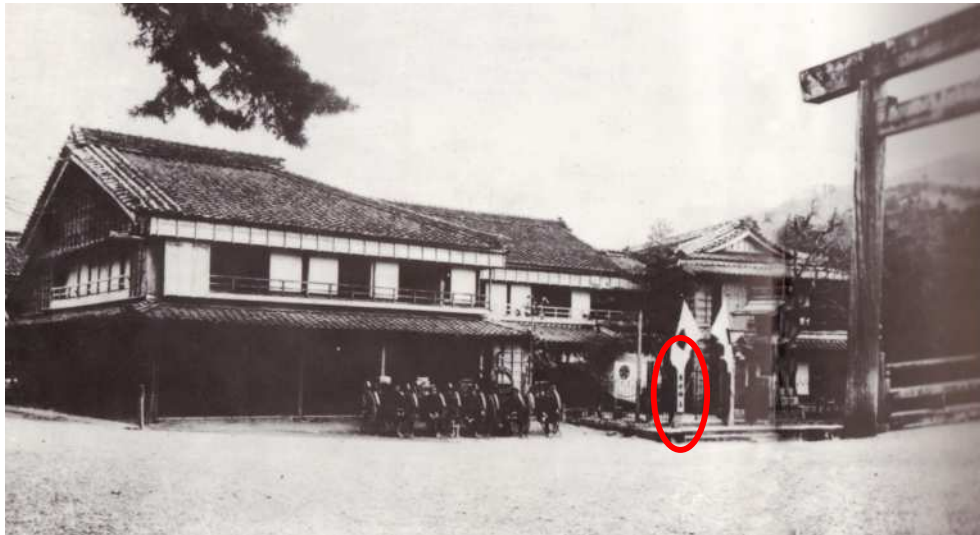


参考: 飯田良樹 著「2軒の角屋と神苑会」より

明治39年の宇治橋前



宇治橋前左側 → 旅館 鈴七 こと 神洲館



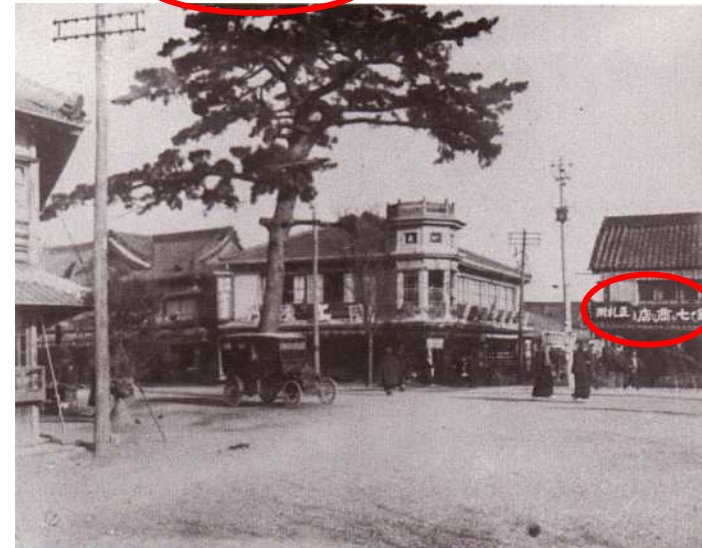
中川采女神主の表札が↑



神洲館 事七鈴旅館 鈴十五宮内勢伊



宇治橋横から



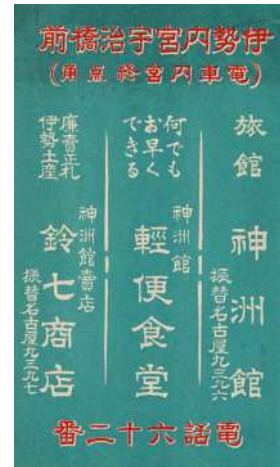
宇治橋前 明治後期 鈴七商店の看板

旅館 鈴七 = 神洲館・鈴七商店 → 内宮前停留所前に移動



SHINSHUKAN MATSUSAKA ISE 伊勢内宮宇治橋 神洲館 長六二番

前は内宮前停留所



神洲館 鈴七商店 昭和11 焼失

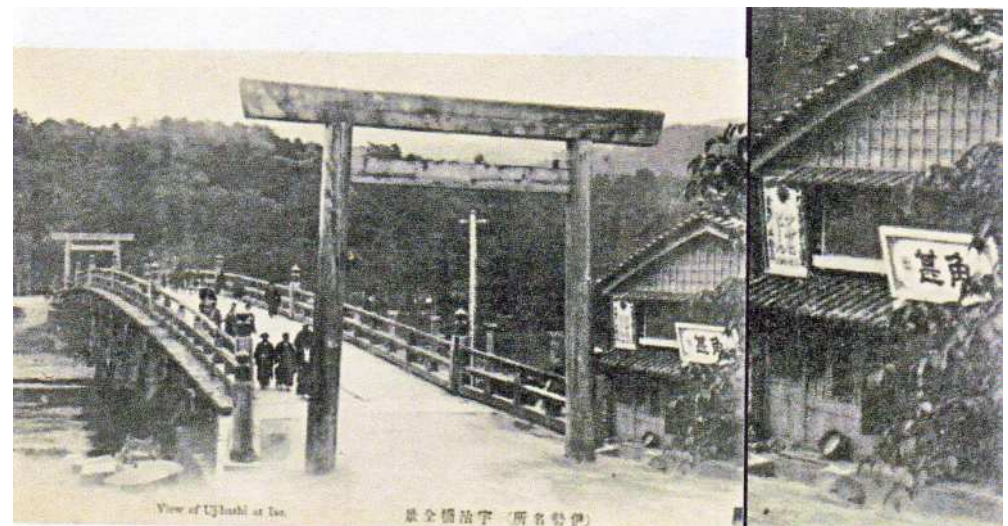
料亭 すし久水月楼



伊勢内宮水月楼すし久 館 電話二四六番

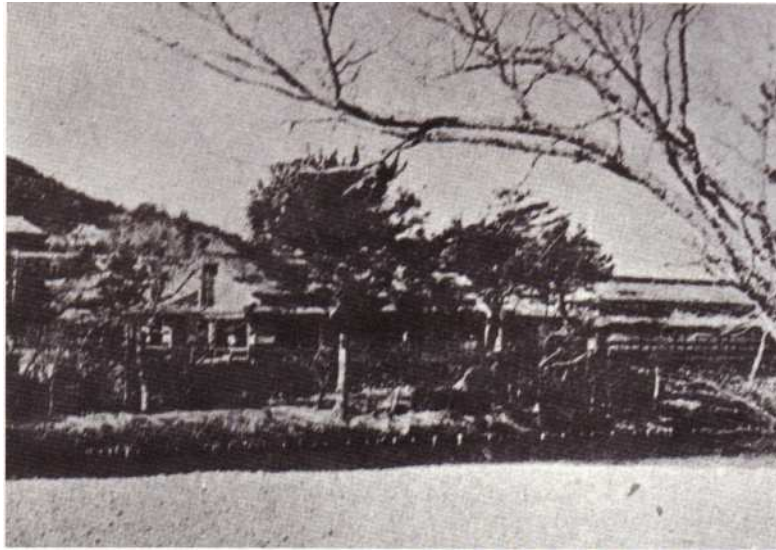


上野館大夫 → 旅館大橋館 明治39前

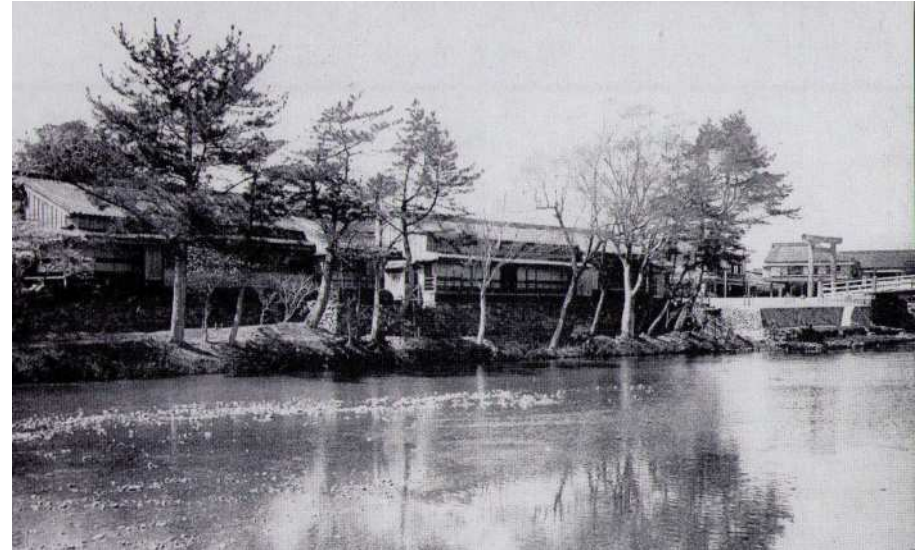


宇治橋前の 角 甚 → 神苑整備のため移転

宇治橋前右側 澤 瀧 おもだか 大夫と大橋館 明治末



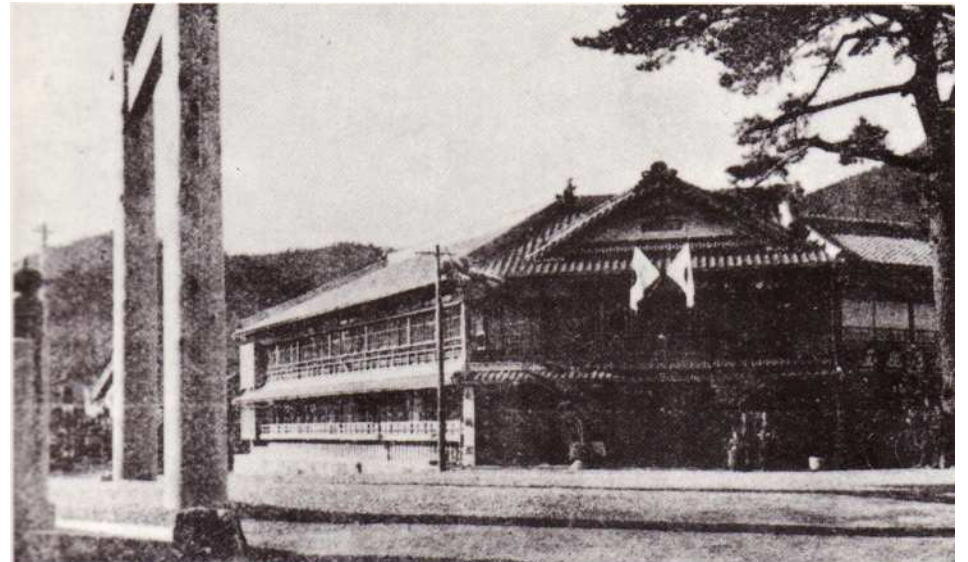
宇治橋右の左 澤 瀧 大夫



宇治橋右の右 大 橋 館



宇治橋前 右は大橋館



大 橋 館

澤瀉大夫



明治38 齋主 賀 陽 宮 殿 下 行幸旅館

宇治橋前から移転 大正初 旅館 大橋館 → 昭和10頃 宇仁館別館 対泉閣



伊勢宮内前宇治橋大館旅館門二

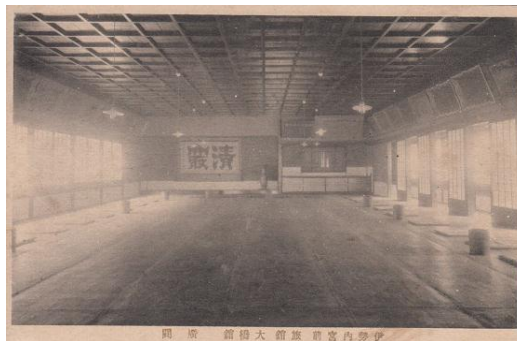


伊勢宮内宇治橋前 大橋館全景



伊勢宮内前旅館大橋館 下町宇治市市街

大橋館 → 現、伊勢道場青少年研修センター



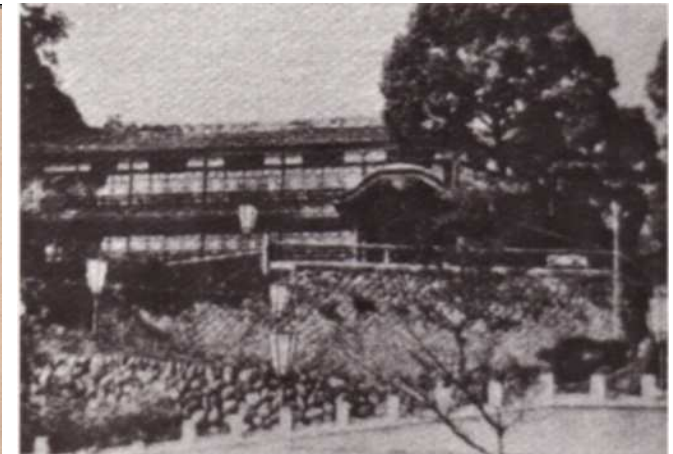
伊勢宮内前旅館大橋館 間広

大橋館大広間



伊勢宮内前旅館大橋館 正面全景

大橋館



対岳館

内宮電車停留所



勢乃國屋物産館が見える＝大正初期？



大橋館電車待合所



大橋館から内宮前停留所を望む

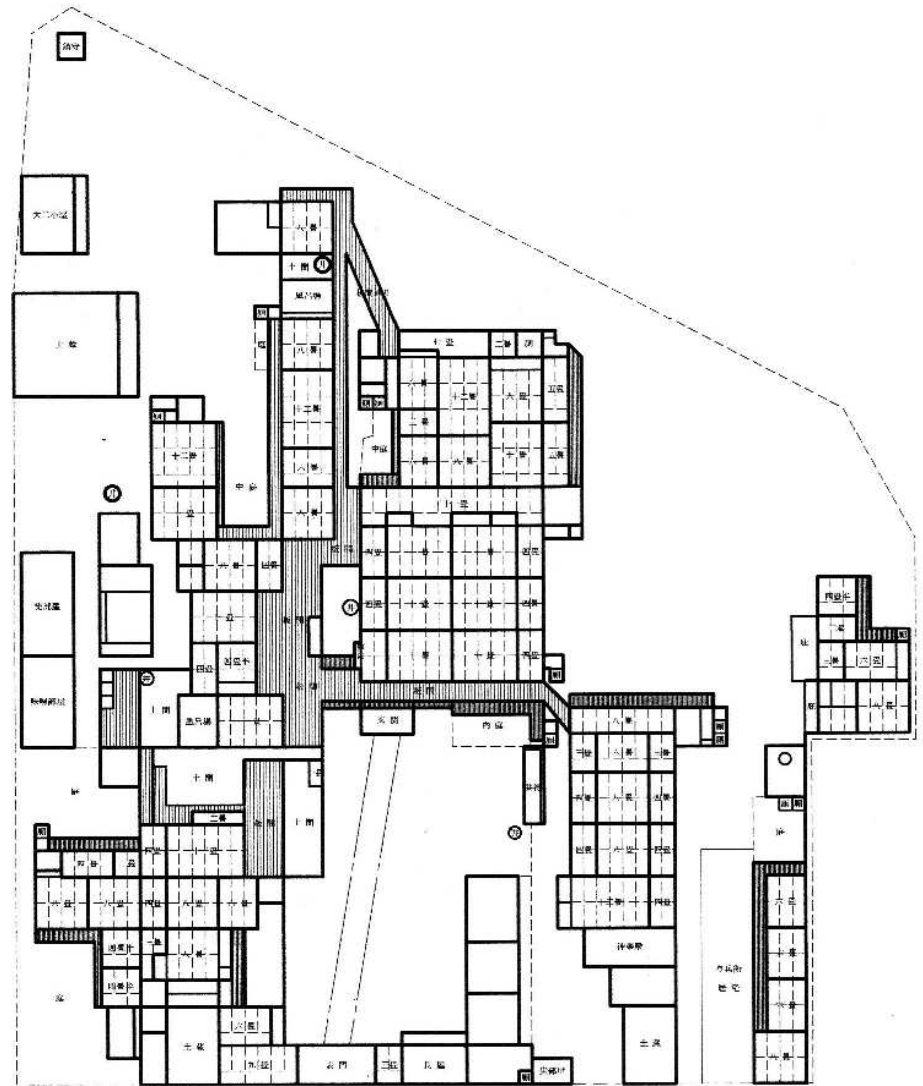
御 師 邸 山田に比べて小規模



太郎館大 → 夫祭主職舎

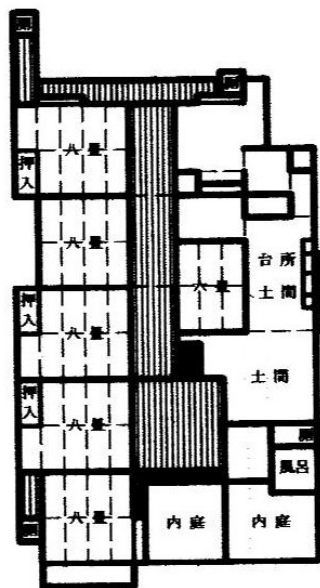


山本大夫 → 小宮司職舎



山本大夫邸 平面図

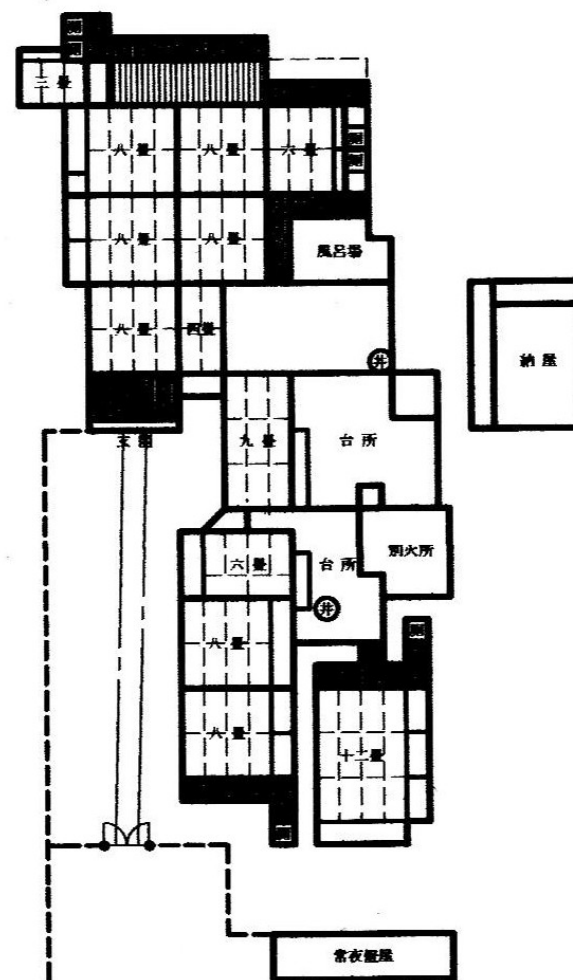
御 師 邸



磯部館大夫邸平面図(桜木町)



浦田大夫邸 → 神宮司庁 → 神宮道場



白鬚大夫邸平面図(浦田町)

宇治名所



岩戸屋



俳祖 荒木田守武翁遺跡碑



宇治奇合会合所跡碑 会所世古



宇治法案舎跡碑

宇治名所



宇治祖霊殿



修養団国民道場



慶光院清順墳墓地



前の石橋



新しく整備している墳墓(現在は完了)

名 所



神宮参集所



神宮会館



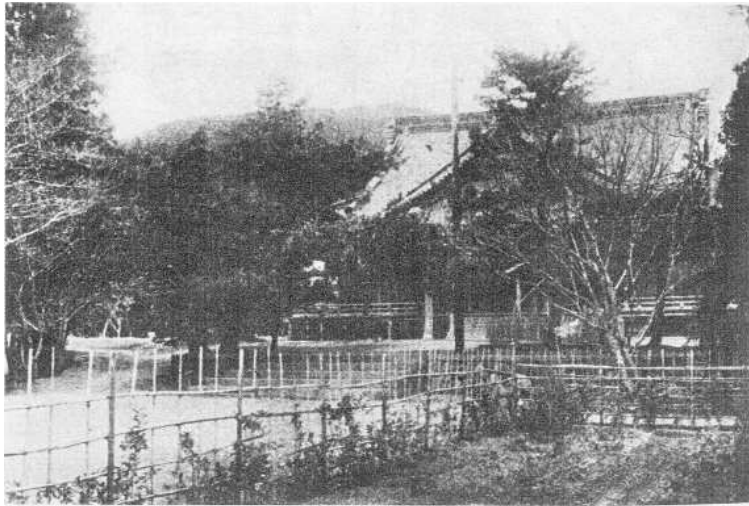
内宮文庫→林崎文庫 1690
→神宮文庫に献本 明治39



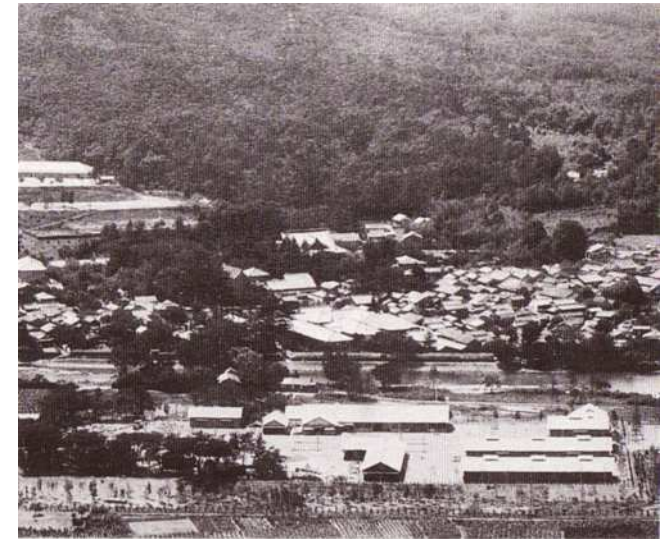
神宮文庫 宇治館町 明治39創立



名 所



神宮奉斎会(神宮教院) 現、祭主職舎 明治 32 前
のち 昭和5年 御遷宮奉祝神都博覧会 神都公会堂 として宇治山田駅前に移築



宇治館町 宇治工作所



如 雪 園 大正9年 大阪の篤志家 帯谷伝三郎が経営した、敬神者のための遊園地



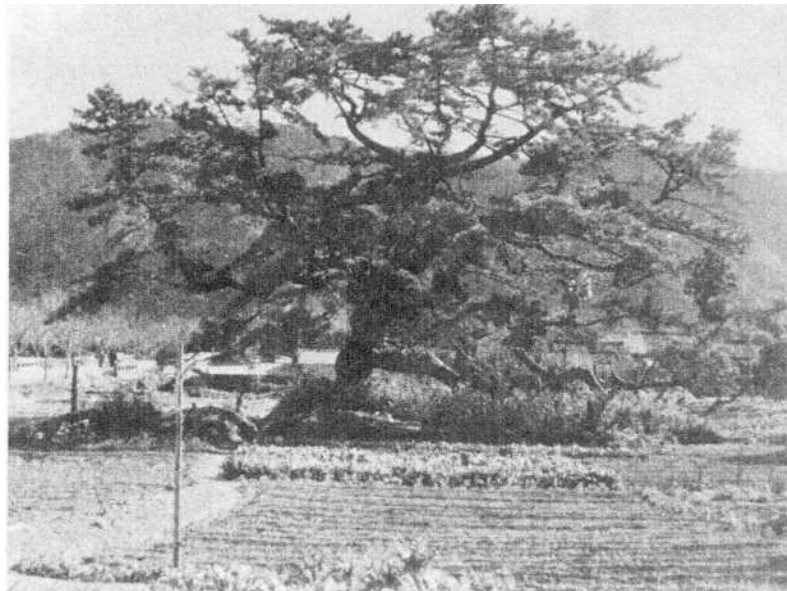
名 所



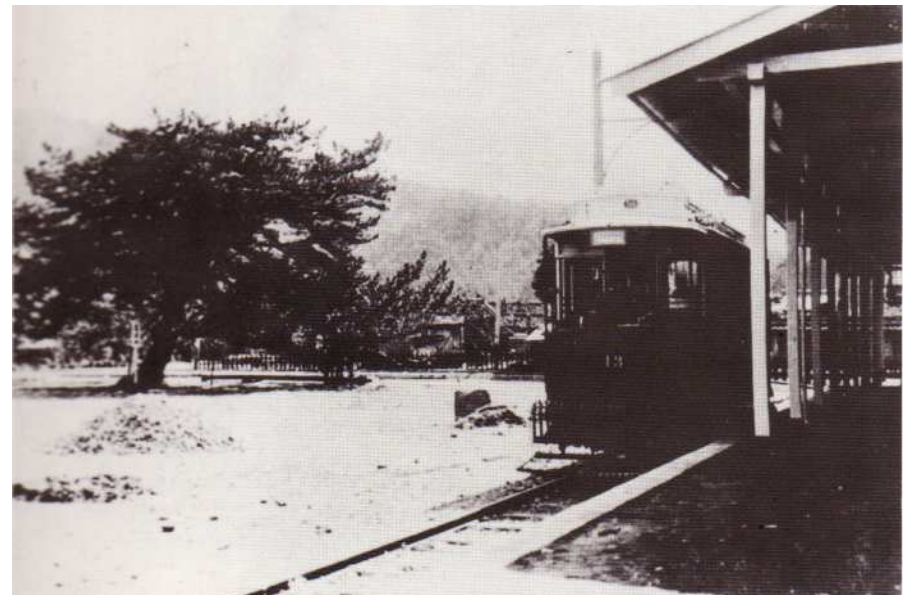
赤福



今も変わらない店内



藤波の松 昭和43枯死



チンチン電車 浦田町停留所（藤波の松を一周して折り返し）

神代餅 勢乃国屋



中村商店 明治42



内宮前停留所 太閤餅(若美家) 奥が、神代餅本舗？

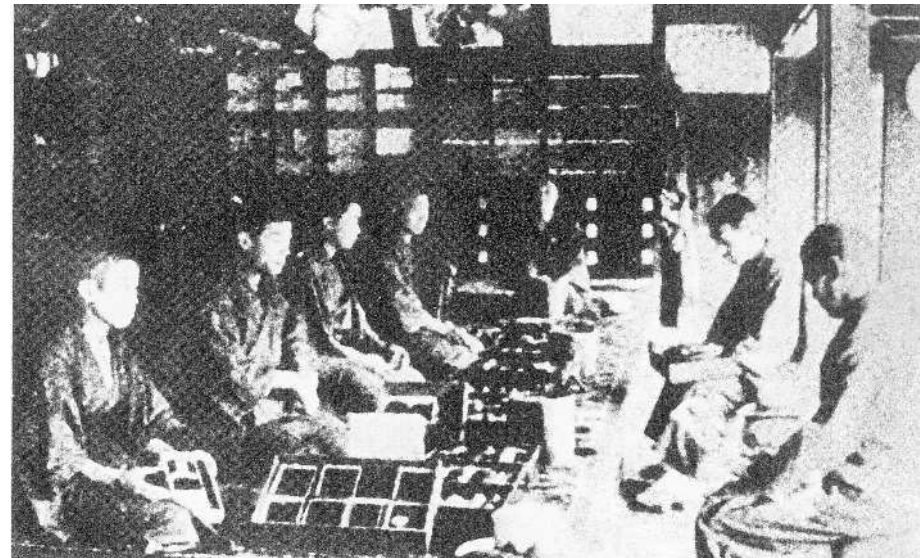
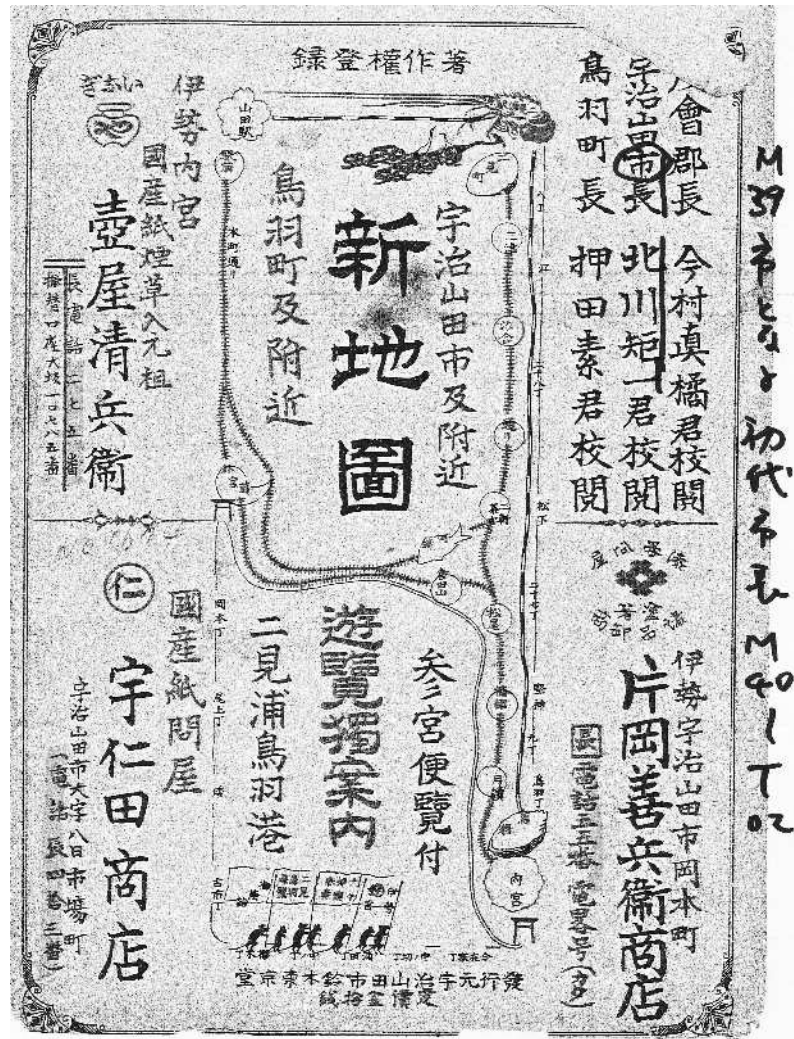


中村太助商店 内宮前支店 神代餅



中村物産店 大正2 昭和44より 勢乃国屋 本店

壺屋清兵衛 いなぎ つぼや支店 岩戸屋の宇治橋方向隣



本店は松阪市稲木町、天保年間に池辺清兵衛が油紙で作った煙草入れを開発し販売していたお店 革製品は古来、神宮では携帯を許さない風習もあったし、安くて、軽くて、革で作ったように見えて高級感があったので、伊勢名物のお土産として人気があった。

西行谷



The Naigu Oku Saigyodani at Ise. 谷行西奥宮内 (所名勢伊)

明治41



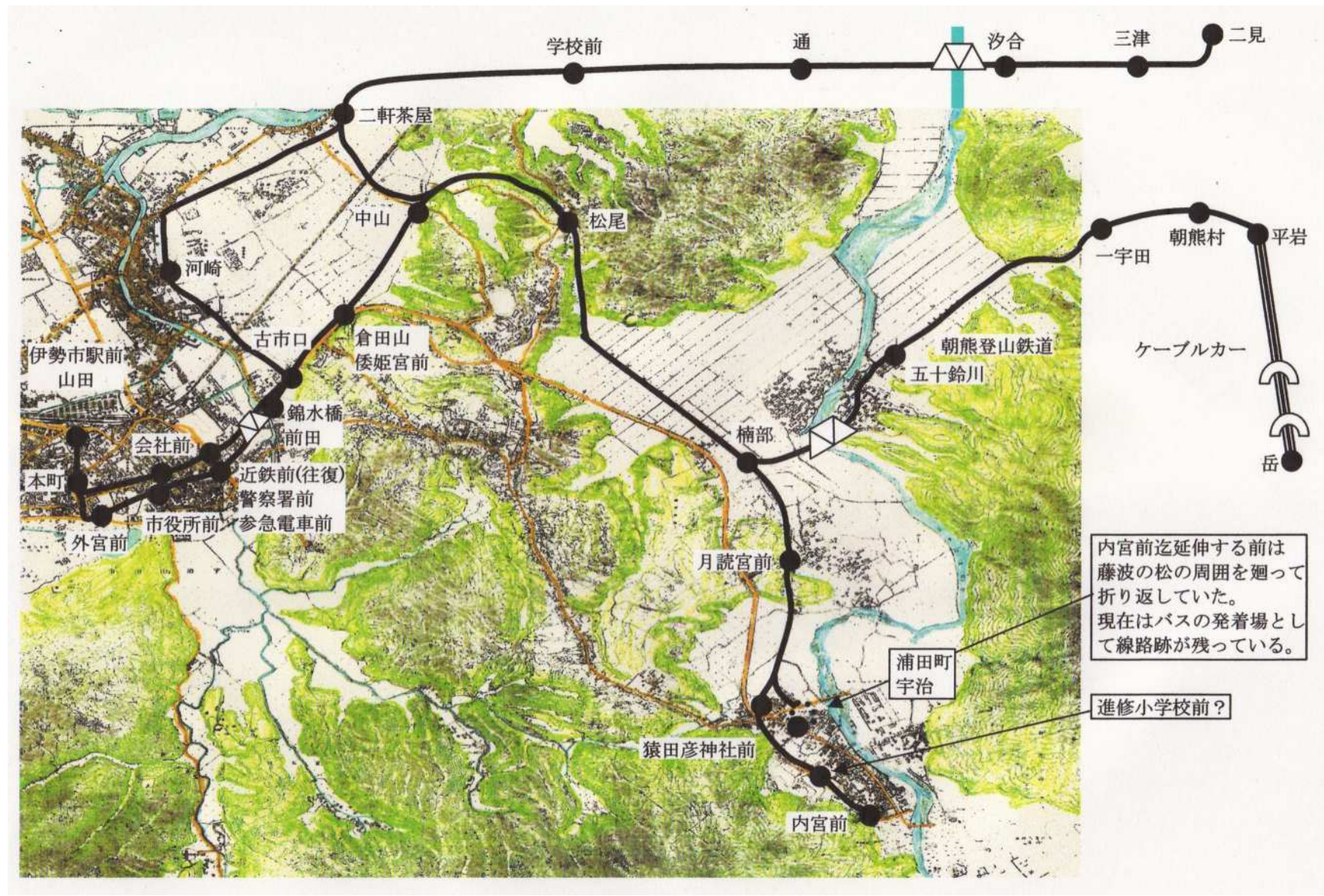
伊勢参宮名所図会 1797 西行谷 神照寺



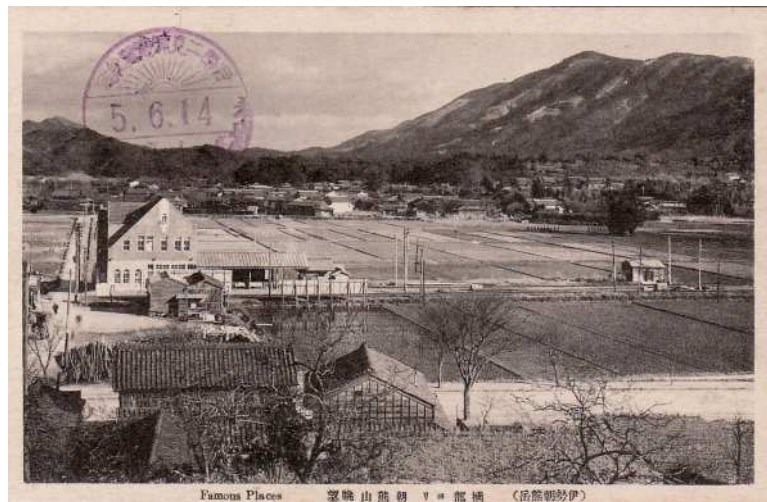
伊勢志摩スカイライン工事中 昭和39
西行谷

千々電車路線図

明治36年創業 宮川電気→(三重)合同電気→→三重交通 神都線 昭和36年廃線

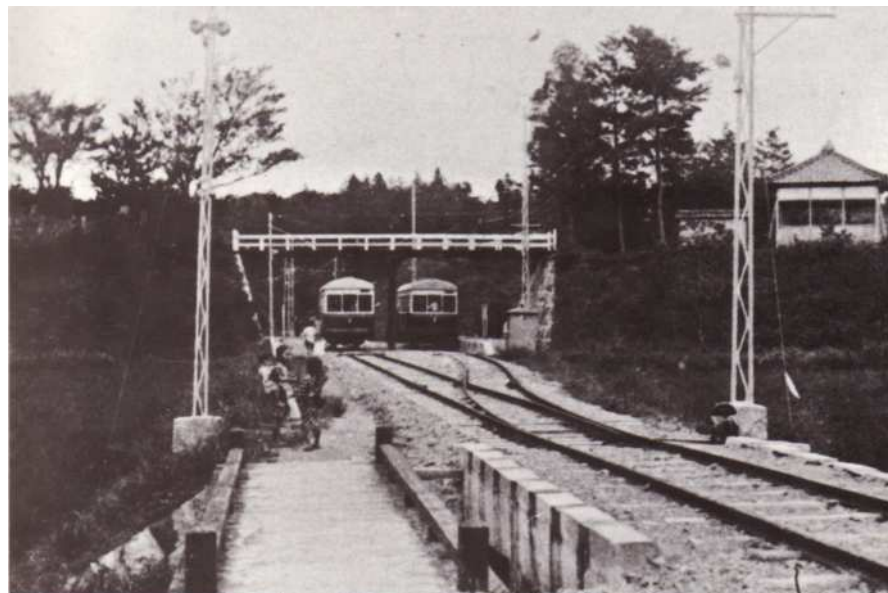
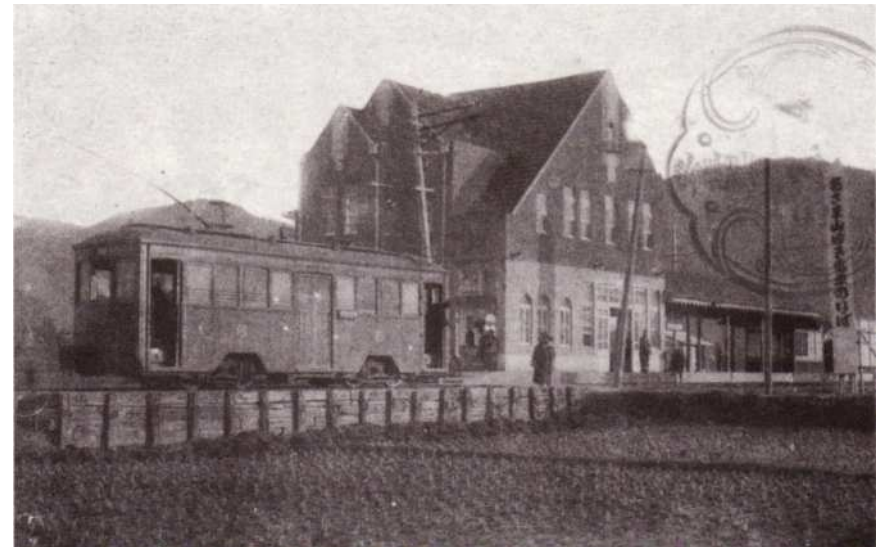


朝熊登山鉄道 大正14営業開始 昭和3三重合同電気と合併 昭和19廃線



Famous Places 望遠山麓朝 伊勢 桶部 (伊勢朝勢伊)

桶部駅昭和5



一字田待機線右側通行



Famous Places 近附所電變道鉄山登熊朝勢伊

朝熊山駅と変電所

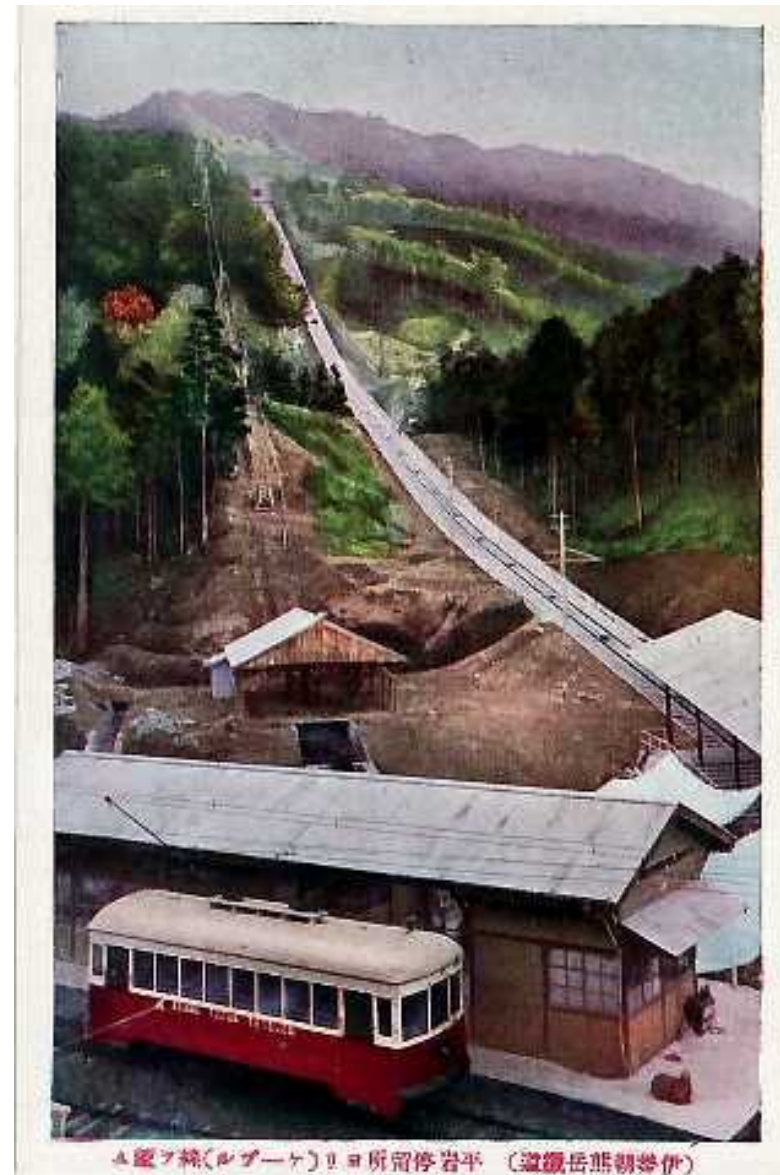
平岩駅



平岩駅



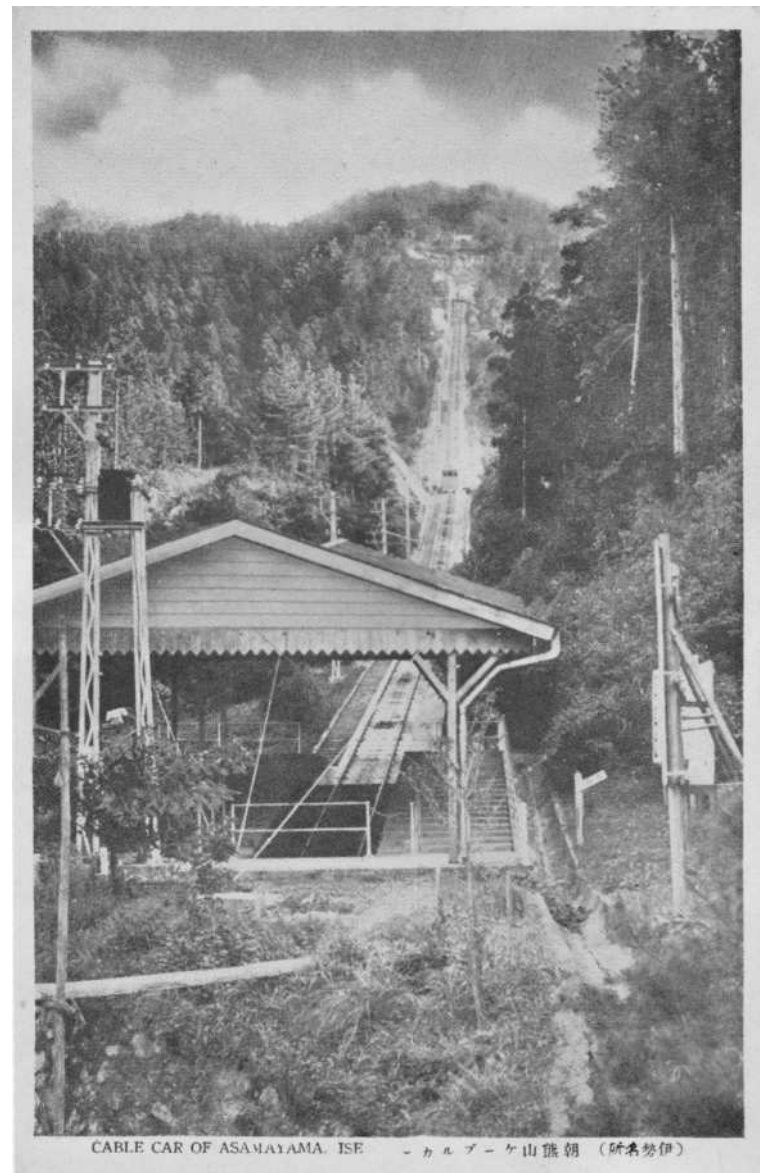
ケーブルカー乗り場



東洋一のケーブルカー



変電所でしょうか？



CABLE CAR OF ASANAYAMA. ISE ーカルブーケ山熊朝 (伊勢勢伊)

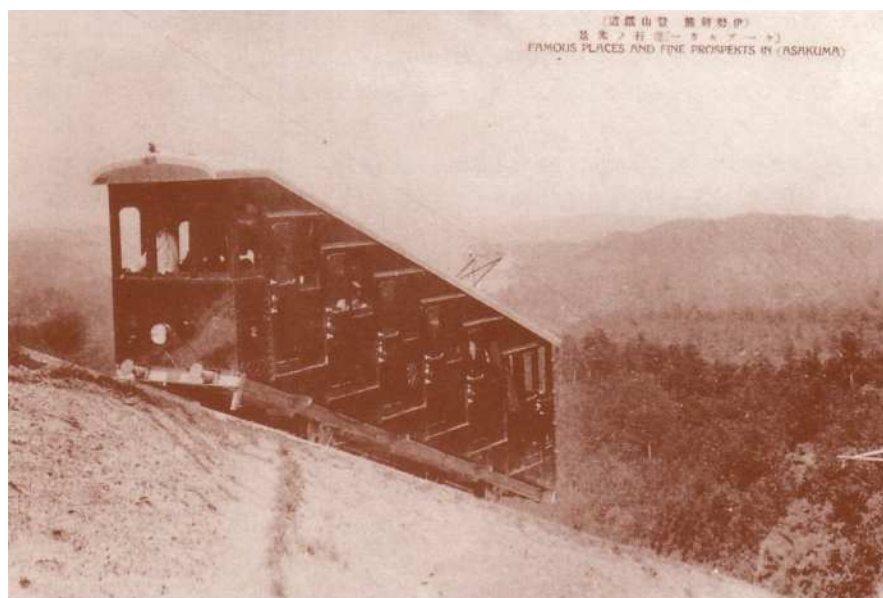
朝熊山



朝熊山登山鉄道ケーブルカー廃墟

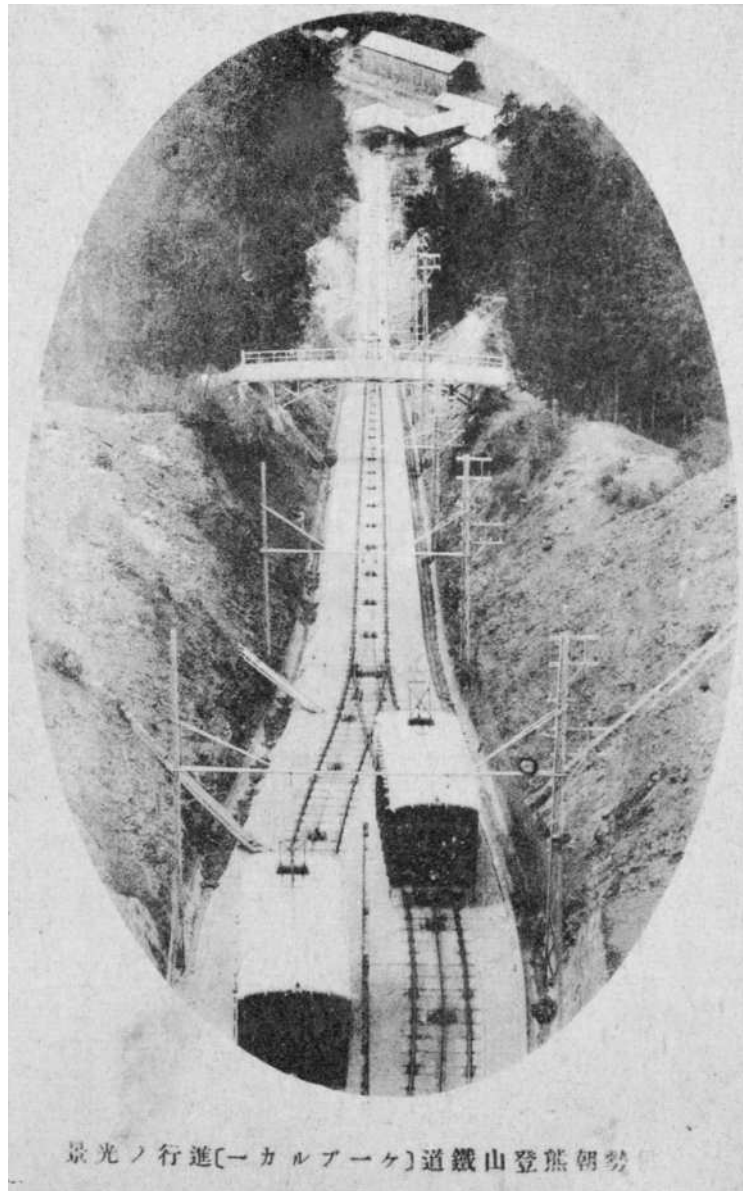
金剛證寺

ケーブルカー

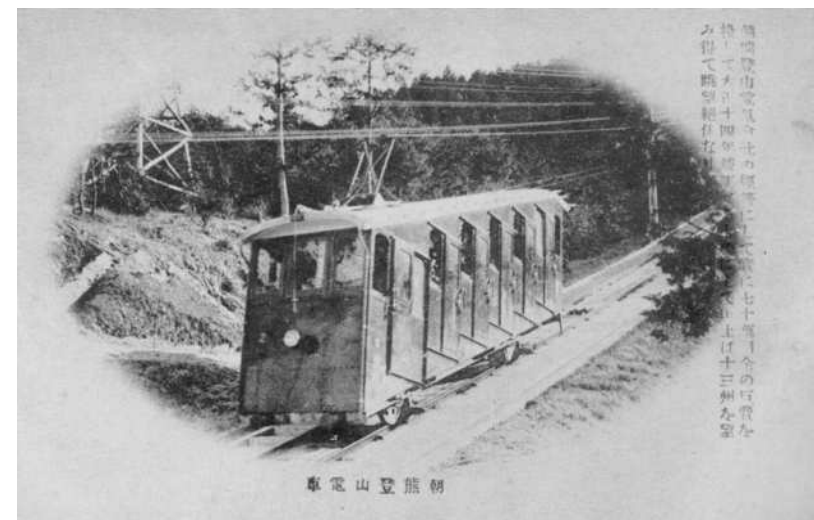
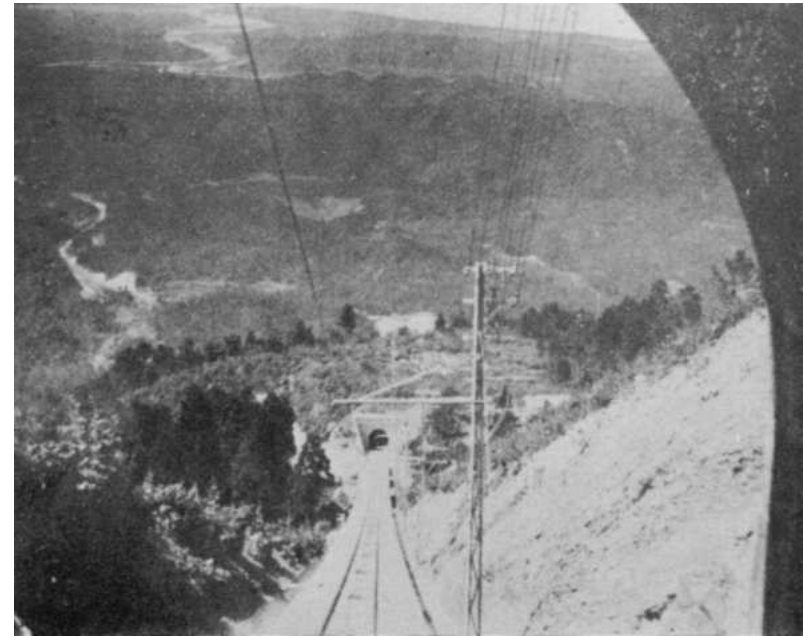
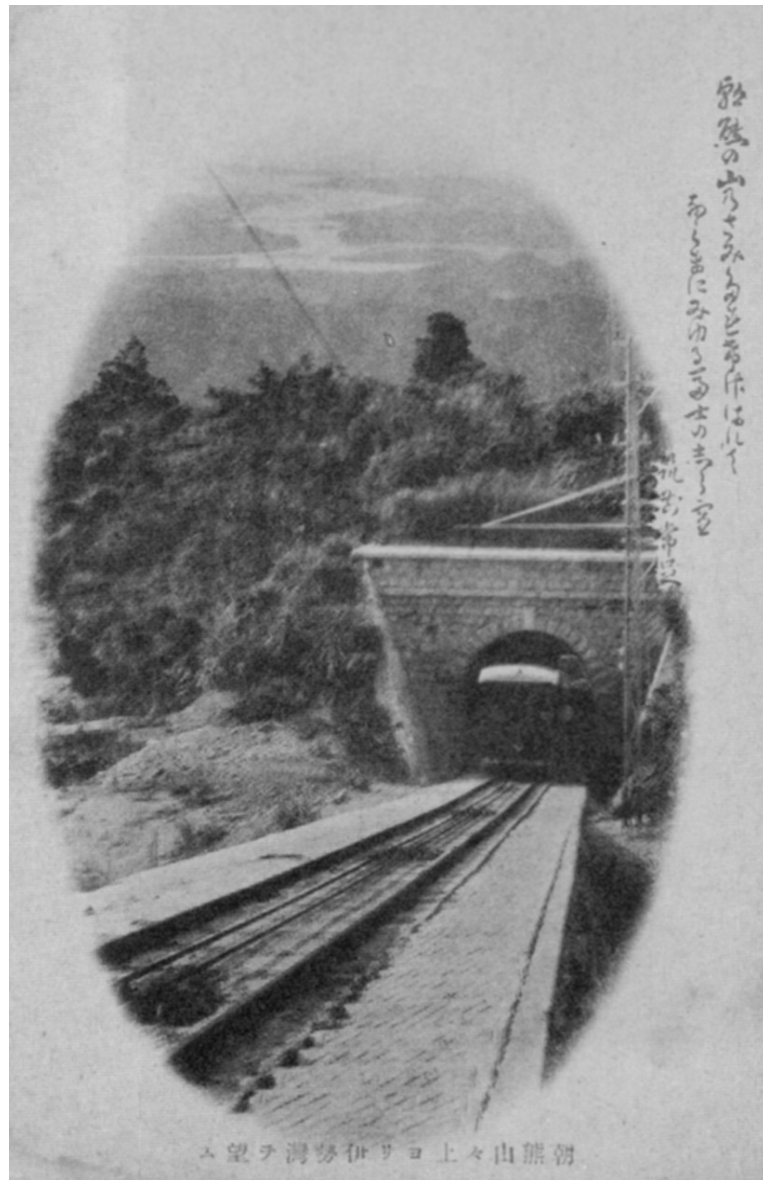


登山道橋

交差線～第1トンネル



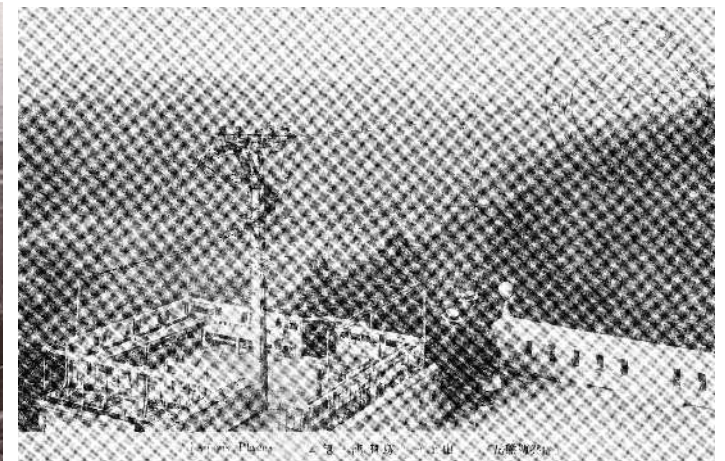
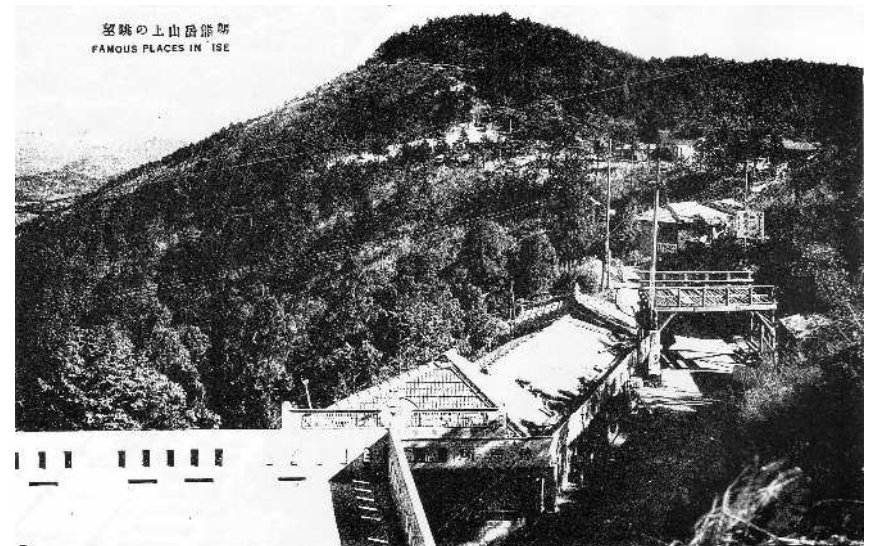
第一トンネル～第2トンネル



岳 駅 到 着



岳 駅



昭和初

今も残る岳駅の廃墟



平岩駅ケーブルカーフラットホーム跡



登山道橋



第1トンネル



第2トンネル



岳駅ケーブルカーフラットホーム跡



駅舎



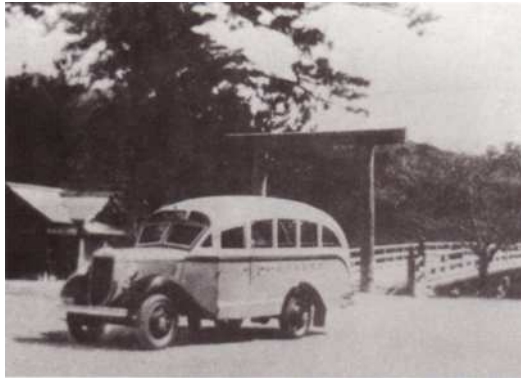
駅舎内部



チケット売り場？

朝熊山上乗合自動車・朝熊登山自動車

東洋ケーブルカー終点驛より
金剛證寺山門まで 片道三銭
朝熊山上乗合自動車
営業時間 午前八時より午後五時まで
朝熊登山自動車合資会社



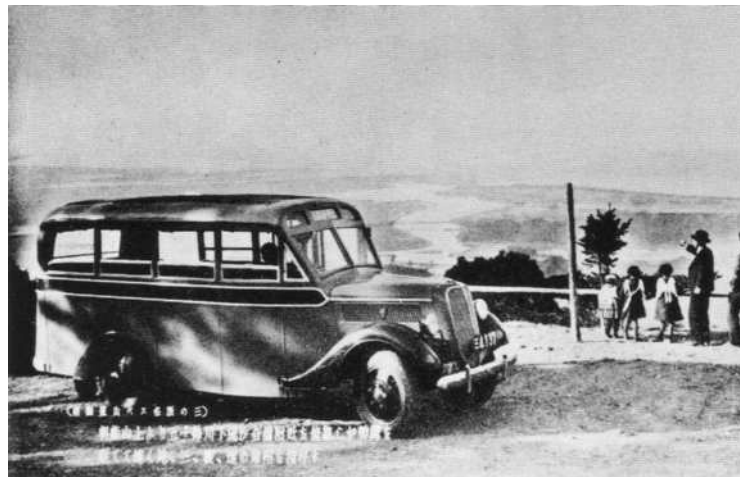
宇治橋前



金剛証寺参道にあった野間萬金丹前の停留所

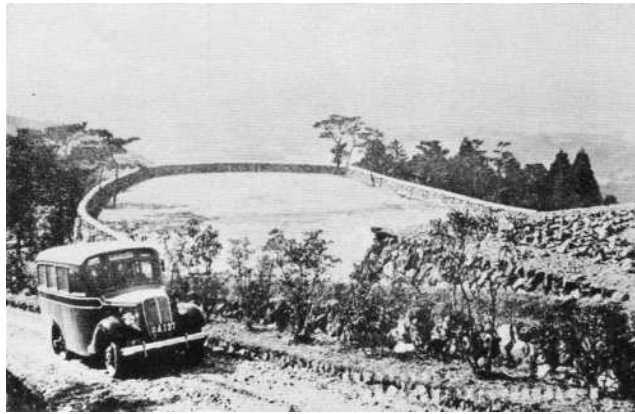


朝熊登山自動車専用道路



昭和4

朝熊山自動車道路



朝熊岳停留所か？

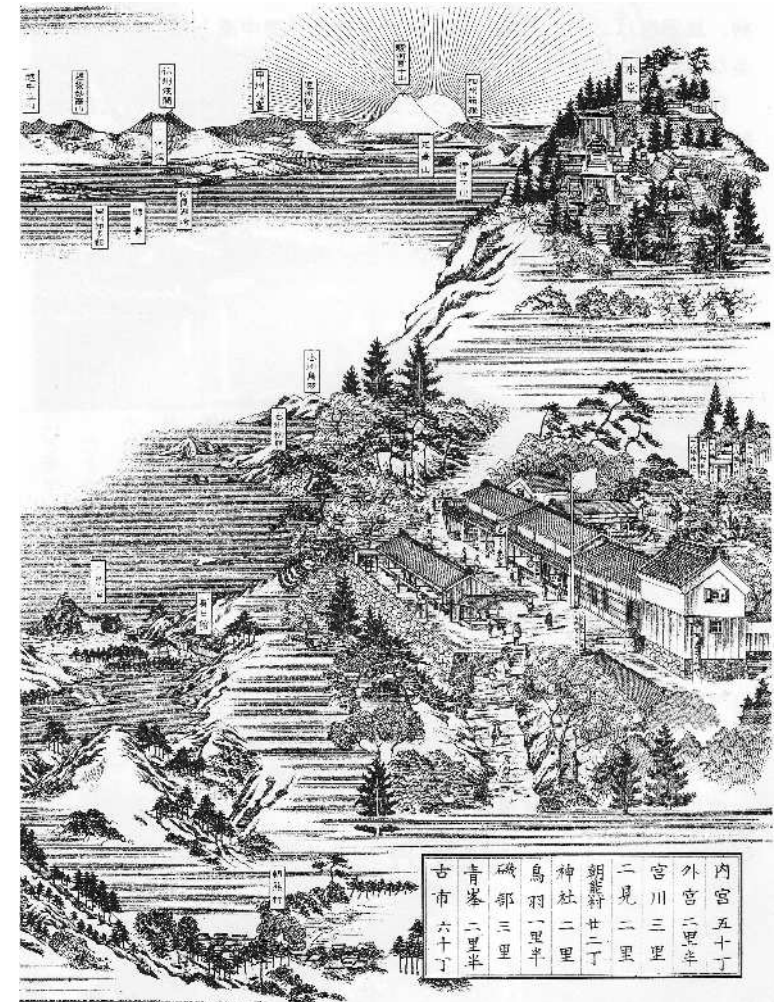


伊勢志摩スカイライン

旅館とうふ屋



朝熊山上
眺望絶佳
旅館とうふや
山上驛より三丁
自動車停留場前
壁境鋭削重 十室
普通室 二十室
百熱敷大廣間 一室
水洗所、便所 二ヶ所
○宿泊料 二圓・二圓半・三圓
○中食料 八十錢・一圓・一圓半
全簡易食堂
中食 五十錢
洋食 二十五錢より



とうふ屋の廃墟

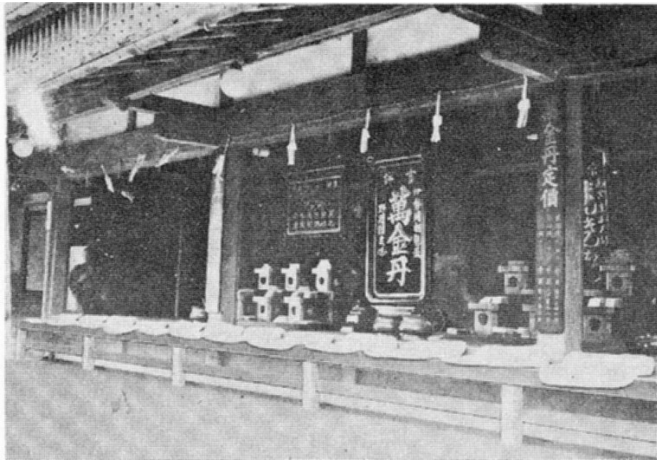


朝熊峠十八州台

野間萬金丹



昭和4



伊勢湾台風時に倒壊→野間萬金丹の廃墟



今でも金剛証寺には売店があります

秋田教方萬金丹



宇治山田尾上町支店萬金丹支店

野間萬金丹 尾上町支店



昭和8年頃

岩城萬金丹 桜木町



朝熊山麓 永松寺



秋田藩初代藩主 秋田城之介 秋田実季の墓

伊勢には4種類の萬金丹があった 1. 朝熊山系(本尊 虚空蔵の靈夢より伝授) (1)野間萬金丹 (2)山原萬金丹 2. 秋田教方中倉→岩城萬金丹 3. 小西萬金丹

金剛証寺 伊勢神宮の鬼門を守る寺

伊勢音頭「お伊勢参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」



山門



極楽橋



本堂



太鼓橋＝極楽橋？



奥の院



奥の院休憩所展望良し

欽明天皇の頃、創建。平安時代には弘法大師によって密教修業の一大道場として隆盛したが、その後、禅寺となり、現在に至る
本堂は1609 姫路の城主池田輝政公の寄進により再建

現在



葵の御紋が！



今もある太鼓橋＝極楽橋？



金五十円 秋田家が寄進



奥の院 極楽門



巨大な卒塔婆が林立

朝熊山山頂



確か 電波塔が建っていたかな？



八王龍王神社



龍池社祭神 八大龍王の碑

ご静聴、有難うございました

**これにて
「新古写真で巡る伊勢散歩」
は
書き終いとさせていただきます**

謝 辞

伊勢郷土史研究家 山田修司氏（ブログ「いにしへの伊勢」）及び 飯田良樹氏 には資料の提供、ならびに、ご指導をいただきました

参 考 文 献

昭和61年 ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣（株）国書刊行会

平成4年 図説 伊勢・志摩歴史＜下巻＞（株）郷土出版社

平成2年 目で見ると読む 伊勢・志摩の100年（株）郷土出版社

伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史 ほか

**筆者プロフィール：伊勢市大世古町生まれ、平塚市在住 近世伊勢参宮名所図会（伊勢探訪記）、伊勢度会近世名軸図鑑、御師研究などを
ホームページ <http://nfc.no.coocan.jp/index.htm> にて公開中 ご質問などありましたら、koji.akita@nifty.com までご連絡下さい**

